

フサヒゲルリカミキリ保護回復事業計画の評価検証結果について（概要）

1 フサヒゲルリカミキリについて

- ・フサヒゲルリカミキリは寒冷な山地（県内では標高 800～1,300m 付近）の草原・湿地に生息する、体長 15～17 mm の日本固有種のカミキリムシ。食草がユウスゲであるため、草地・草原（半自然草原）や田園地帯等のユウスゲ自生地に生息しているが、長野県下における生息数の減少が著しい。
- ・絶滅危惧の要因としては、生息に適した草地・草原の減少・悪化（森林化の進行）、ニホンジカによるユウスゲの食害、捕獲による個体数の減少が主要因とされる。
- ・『長野県版レッドリスト（動物編）2015』で絶滅危惧 I 類。 特別指定希少野生動植物。
- ・保護回復事業計画策定年度：平成 23 年度（2013 年度）

2 計画の目標・取組事項

(1) 計画の目標

自然状態で安定的に生息する状態にまで個体数を回復し、生息環境を維持することが目標。

(2) 取組事項

- ①生息状況の把握と生息環境の調査 ②生息域外飼育 ③生息環境の維持・管理体制の確立
- ④捕獲圧対策の強化

3 計画策定以降の対象種の動向

計画策定以降の対象種の動向

指 標	計画策定時(H23)	評 価 時(H30)	動向
①個体確認数 諏訪地域 木曽地域	諏訪：0 個体 木曽：0 個体（H24:1 個体）	諏訪：0 個体 木曽：0 個体	—
②食草の生育状況 諏訪地域 木曽地域	諏訪：18 本（H23） 木曽：（ほとんど変化なし）	諏訪：1339 本（H30） 木曽：（ほとんど変化なし）	↗
③保全団体の活動状況 諏訪地域 木曽地域	諏訪：1 グループ 木曽：（行政主体の活動のみ）	諏訪：1 グループ 木曽：（地域興し団体も参画）	↗
補 足 事 項	・ 諏訪地域では、保全団体と希少野生動植物監視員の活動により防鹿柵の設置と定期的な草刈によりユウスゲの株数が大幅に増加した（別紙）。 ・ 木曽地域では、伝統的な草原維持活動を継続していく機運が高まりつつある（別紙）。 ・ 両地域ともフサヒゲルリカミキリの個体は、直近 5 年間確認されていない。		

4 成果

- 諏訪地域では平成 17 年以降、保全団体主体の監視活動と生息調査を実施した。平成 23 年には防鹿柵を設置し、草刈り作業を毎年行ってきたことによりユウスゲが増加してきた。
- 木曽地域では、地元自治体のほか様々な地域の関係団体や関係者の協力を得て保全活動と生息確認調査ができた。

5 専門委員会による保護回復事業計画の継続に関する判定と意見

(1) 計画継続に関する判定：計画継続（部分的な修正を含む）

(2) 付帯意見（概要）：

- ア 専門小委員会の意見に今後対応されたい。
- イ まだ個体が生息している可能性があるため、今後も広範囲な調査を実施していくこと。
- ウ 域外保全を実施するために、飼育・繁殖ができる関係者や団体との協力体制を構築していくこと。
- エ 再導入に向けて関係機関と協議・調整をし、他のモデルとなるような体制を構築していくこと。